

令和8年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象および内容

- ・調査対象 … 小学校第6学年（市内9校）321人、中学校第3学年（市内6校）327人
- ・調査内容 … 【教科に関する調査】
 - ・小学校第6学年：国語、算数（各45分）
 - ・中学校第3学年：国語、数学、英語（各50分）
 - 国語、算数・数学は冊子を用いた筆記方式（PBT）
 - 中学校英語は、生徒が活用するICT端末等を用いた文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT）
- 【生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査】
 - ・児童生徒に対する調査（20～40分程度）
 - 小・中学校ともに児童生徒が活用するICT端末等を用いた文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT）
 - ・学校に対する調査（オンラインによる回答）
- ・調査期日 … 国語、算数・数学：令和8年4月23日（木）
 児童質問調査：令和8年4月24日（金）～5月8日（金）のうち、指定された1日
 中学校英語（読むこと・書くこと・聞くこと）、生徒質問調査：
 令和8年4月20日（月）～23日（木）のうち指定された1日
 中学校英語（話すこと）：令和8年4月24日（金）～5月29日（金）のうち、指定された1日

2 教科に関する調査の結果の概要

(1) 各教科における本市と県・全国の平均正答数と平均正答率（％）、平均IRTスコア

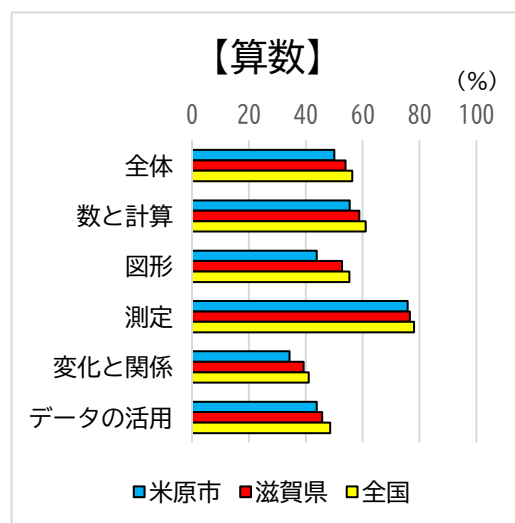
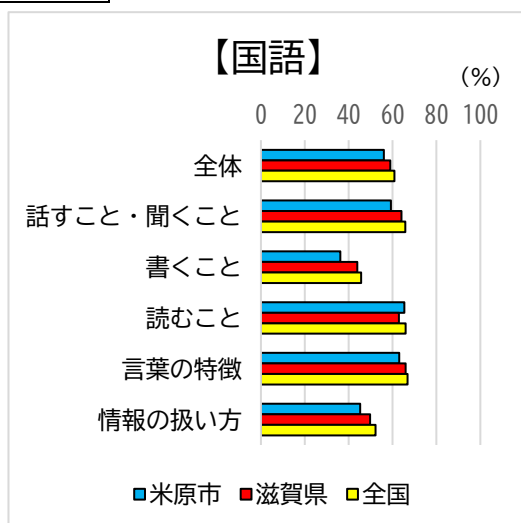
	教科	平均正答数／設問数				平均正答率			
				県との差	全国との差			県との差	全国との差
小学校	国語	米原市	7.2／13	-0.5	-0.7	米原市	56	-3	-4.9
		滋賀県	7.7／13			滋賀県	59		
		全国	7.9／13			全国	60.9		
	算数	米原市	7.9／16	-0.8	-1.1	米原市	50	-4	-6.4
		滋賀県	8.7／16			滋賀県	54		
		全国	9.0／16			全国	56.4		
中学校	国語	米原市	9.4／15	±0	-0.2	米原市	62	±0	-1.9
		滋賀県	9.4／15			滋賀県	62		
		全国	9.6／15			全国	63.9		
	数学	米原市	8.8／16	-0.3	-0.3	米原市	55	-2	-2.0
		滋賀県	9.1／16			滋賀県	57		
		全国	9.1／16			全国	57.0		
					平均 I R T スコア				
				県との差	全国との差			県との差	全国との差
	英語	米原市	4.2／9	-0.1	-0.3	米原市	492	-2	-7
		滋賀県	4.3／9			滋賀県	494		
全国		4.5／9	全国			499			

IRT（Item Response Theory:項目反応理論）
 児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）
 によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、
 児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

IRTスコア
 IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から
 学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

(2) 各教科の学習指導要領の領域別平均正答率

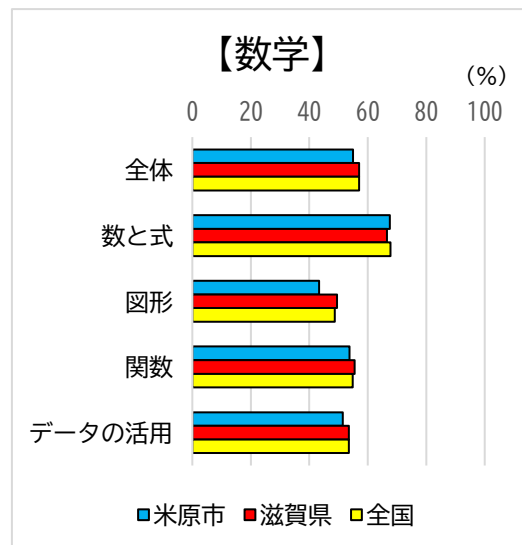
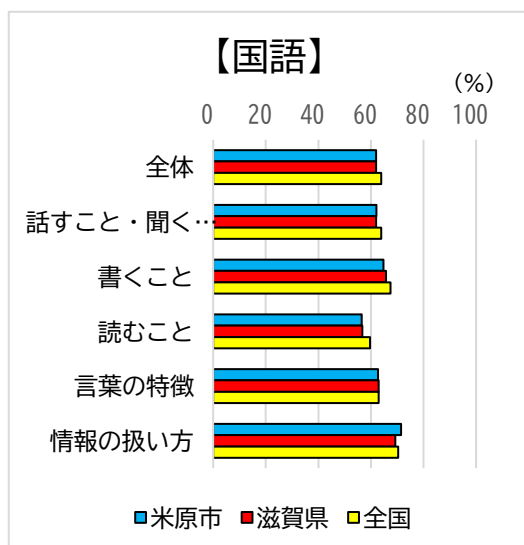
小学校第6学年



国語：県・全国と比べてやや下回る。「読むこと」は、全国とほぼ同等で県を上回る一方、特に、「書くこと」と「情報の扱い方に関する事項」に課題が見られる。

算数：県・全国と比べてやや下回る。「測定」は県とほぼ同等であるが、特に、「図形」と「変化と関係」に課題が見られる。

中学校第3学年



国語：県と同等であるが、全国と比べるとやや下回る。「情報の扱い方に関する事項」は県・全国を上回る一方、「書くこと」と「読むこと」に課題が見られる。

数学：県・全国と比べてやや下回る。「数と式」は県を上回るものの、特に「図形」に課題が見られる。

※中学校英語については、IRTを活用したCBTで実施され、技能別および領域別の正答率の公表はないため、掲載なし。

(3) 正答率が低かった問題

問題① 小学校第6学年【国語】「書くこと」(思考・判断・表現) 2 四

【花山さんの文章の続き】

4 すずしく過ごせる衣服の色は何色か
「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そででもすずしく過ごすことができそうだ。
また、

5 終わりに
これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。
(参考文けん)

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しやすいため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

(条件)
○「集めた情報」の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。
○ぬき出した本の題名と本文の一部の内容はかぎっこ(二)でくくること。
○ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。
○百四十文字以内にまとめて書くこと。

【花山さんの文章の一部】

暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう

1 はじめに
夏休みに外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。暑いときは、そでが「みじかい方がすずしいのではないかな。なぜ、長そでの服を着ているのか」ふしぎに思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。

2 どうして暑い日に長そでの服を着るのか
「生活と太陽」という本には、「日差しの強いときにはだを出して日焼けをすると、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする。」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服でおおっている人たちがいる。皮ふに直しや日光を当てない方がすずしいのである。」と書かれている。①強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだ。
では、すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのだろうか。

3 すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのか
「熱中しょうかん境保健マニュアル2022」には、暑さをさげる衣服のくふうとして、「ゆったりした衣服にする。」「えり元をゆるめて通気する。」と書かれている。また、「夏のくらし方」という本には、「服とはだの間に風が通るようにえり元やすそをゆったりさせると、すずしくなります。」と書かれている。②(図)のように衣服の形や着方を意識してくふうすることで、長そでの服でもすずしく快適に過ごすことができそうだ。
では、衣服の形や着方以外に、快適に過ごすくふうはあるのだろうか。

(図)

2
花山さんの学級では、夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたことを書き、友達と報告し合うことになりました。花山さんは、「暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう」について調べ、文章を書いていきます。次の「花山さんの文章の一部」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

問題② 中学校第3学年【国語】「書くこと」(思考・判断・表現) 4 四

【条件】
条件1 例文2の「練習」を参考に、自分が考えたことを具体的に書くこと。
条件2 条件1で書いたことを踏まえて、練習の効果をjつて、本文の言葉を使って書くこと。

【集めた情報】

【例文1】「練習」を参考に、自分が考えたことを具体的に書くこと。
「いえ、たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

【例文2】「練習」を参考に、自分が考えたことを具体的に書くこと。
「いえ、たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

【練習】
「いえ、たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

【本文】
「いえ、たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

【練習】
「いえ、たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

【本文】
「いえ、たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

4
林さんは、本文を読み、練習したことをより深めるために、具体的な場面を思い浮かべながら、練習の例文を書いてみました。あなは、練習と、練習を比べて、練習にはどのような効果があると思いますか、あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。

(中田野子)「会話を表す練習」(練習)による。

4
林さんは、練習(練習)に練習をもとに、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。
[7]は、段落の番号を表します。

<調査結果のポイント>

【小学校国語】

- 「読むこと」において、目的に応じて必要な情報を見付けたり、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめたりすることができていた。
- 「書くこと」において、条件を満たして記述することに課題が見られた。(問題①)

【中学校国語】

- 「情報の扱い方に関する事項」において、情報と情報との関係の様々な表し方を理解することができていた。
- 「書くこと」において、文章を読んで理解したことや自分の考えを、条件を満たして記述することに課題が見られた。(問題②)

問題③ 小学校第6学年【算数】「図形」(思考・判断・表現) 4 (3)

1

立方体や直方体について考えます。

(3) 1 cm^3 の立方体が 36 個あります。36 個をすべて使って、高さが 4 cm

の直方体を 1 つ作りました。

その直方体の体積は何 cm^3 ですか。

答えを書きましょう。

問題④ 小学校第6学年【算数】「変化と関係」(思考・判断・表現) 2 (3)

2

ことねさんは、ある動物園について調べています。

(3) AとBの2つのペンギンの広場があります。

下の表は、広場にいるペンギンの数と広場の面積を表しています。



広場にいるペンギンの数と広場の面積

	ペンギンの数 (羽)	面積 (m^2)
A	10	20
B	12	30

ことねさんは、どちらの広場の方がこんでいるのかを調べるために、下の計算をしました。

【ことねさんの計算】

$$\begin{array}{l} \text{A} \quad 10 \div 20 = 0.5 \\ \text{B} \quad 12 \div 30 = 0.4 \end{array}$$

【ことねさんの計算】をもとに、どちらの広場の方がこんでいるのかについて、下のようにまとめます。

下の ア と イ、ウ と エ の中から、正しいものをそれぞれ選んで、その記号を書きましょう。

【ことねさんの計算】は

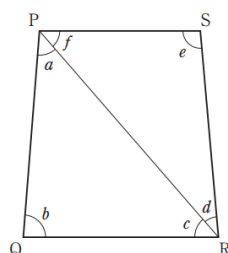
ア	1 m^2 あたりのペンギンの数	を求めています。
イ	羽あたりの面積	

商を比べると

ウ	商が大きいAの広場	の方がこんでいることがわかります。
エ	商が小さいBの広場	

問題⑤ 中学校第3学年【数学】「図形」(知識・技能) 3

3 下の図は、四角形 PQRS に対角線 PR をひいたものです。



上の図において、 $\angle a$ から $\angle f$ までの 6 つの角のうち、ある 2 つの角の大きさが等しければ、 $PS \parallel QR$ であるといえます。その 2 つの角を書きなさい。

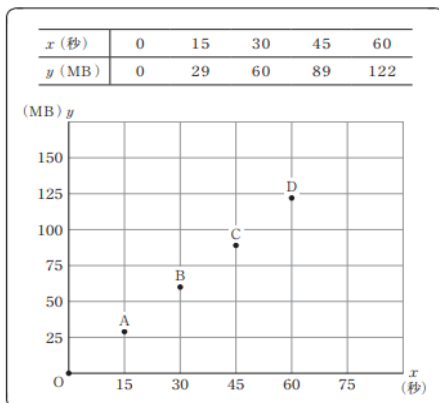
問題⑥ 中学校第3学年【数学】「データの活用」(思考・判断・表現) 7 (2)

- 7 光希さんのクラスでは、クラス紹介の動画(ビデオ)を撮影することになりました。撮影する動画のデータ量は1000 MBまでにすることになっています。

そこで、動画の時間によってデータ量がどのように変わるかを調べるために、同じ撮り方で時間だけを変えて動画を撮影し、動画の時間とそのデータ量を記録しました。そして、動画の時間が x 秒のときのデータ量を y MBとして、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。

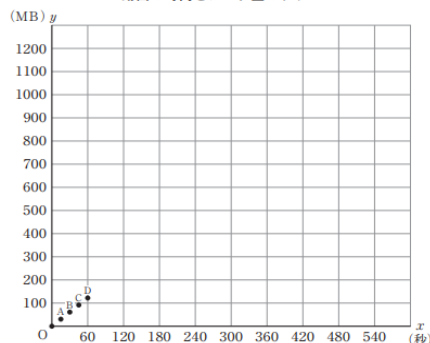


調べた結果



- (2) 光希さんは、1000 MBのデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、前ページの調べた結果を下のグラフに表しました。

動画の時間とデータ量のグラフ



動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。このとき、データ量が1000 MBになるときの動画の時間はおよそ何秒になるかを求める方法を、 x 座標や y 座標、 x の値や y の値など、 x や y を使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

<調査結果のポイント>

【小学校算数】

- 「測定」において、示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができていた。
- 「図形」において、「面積」や「体積」、「立方体」などの意味、基本的な概念の理解・定着に課題が見られた。(問題③)
- 「変化と関係」において、単位量あたりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から混み具合を判断することに課題が見られた。(問題④)

【中学校数学】

- 「数と式」において、具体的な場面で正の数と負の数を用いて変化や状況を表したり、「同類項」の意味を理解したりすることができていた。
- 「図形」において、2直線が平行になるための条件の理解に課題が見られた。(問題⑤)
- 「データの活用」において、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られた。無解答率も46.2%であり、記述することを諦めてしまう生徒が半数近くいることがうかがえる。(問題⑥)

問題⑦ 中学校第3学年【英語】「書くこと」(思考・判断・表現) 10 (2)

10

中学生のまいこ(Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の(1)と(2)の問いに答えなさい。

(2) まいこの質問に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で書きなさい。【まいこが書いた文章】にある表現を使って書いてもかまいません。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

<解答欄> ※半角で入力してください

Do you think my opinion is good?

あなたの考え

なぜそう考えるのか

問題⑧ 中学校第3学年【英語】「書くこと」(思考・判断・表現) 11

11

留学生のメイ(Mei)に昨日の出来事について質問し、分かったことを下の【表】にまとめました。【表】を見て、例を参考にしながら、①メイが行った場所、②メイがしたことを、それぞれ英文1文で書きなさい。

【表】

例	メイが起きた時刻	7時(seven)
①	メイが行った場所	公園(the park)
②	メイがしたこと	テニス(tennis)

<解答欄> ※半角で入力してください

例 Mei got up at seven.

①

②

<調査結果のポイント>

【中学校英語】

○「聞くこと」において、日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができていた。

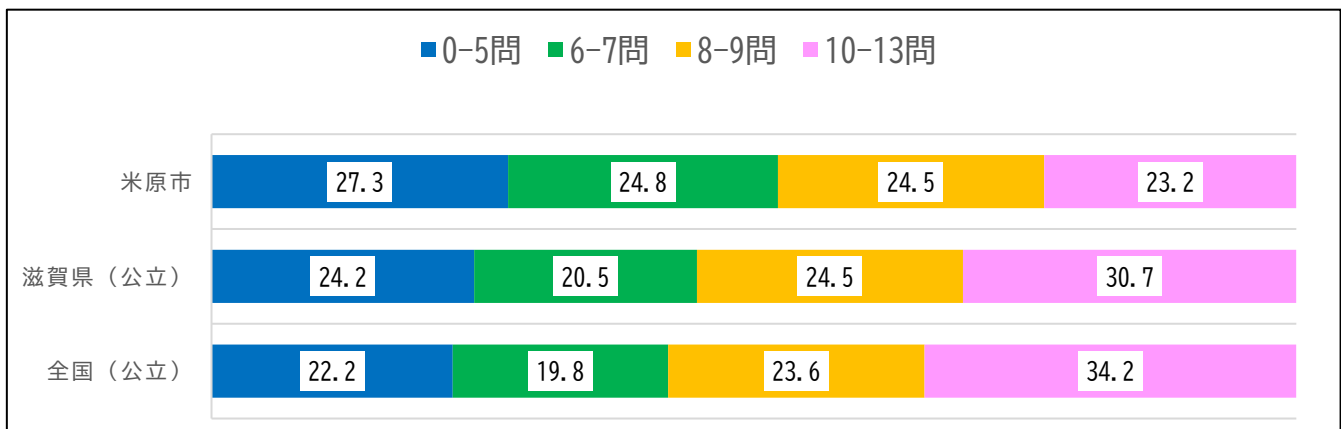
●「書くこと」において、社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことに課題が見られた。(問題⑦)

●「書くこと」において、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用することに課題が見られた。(問題⑧)

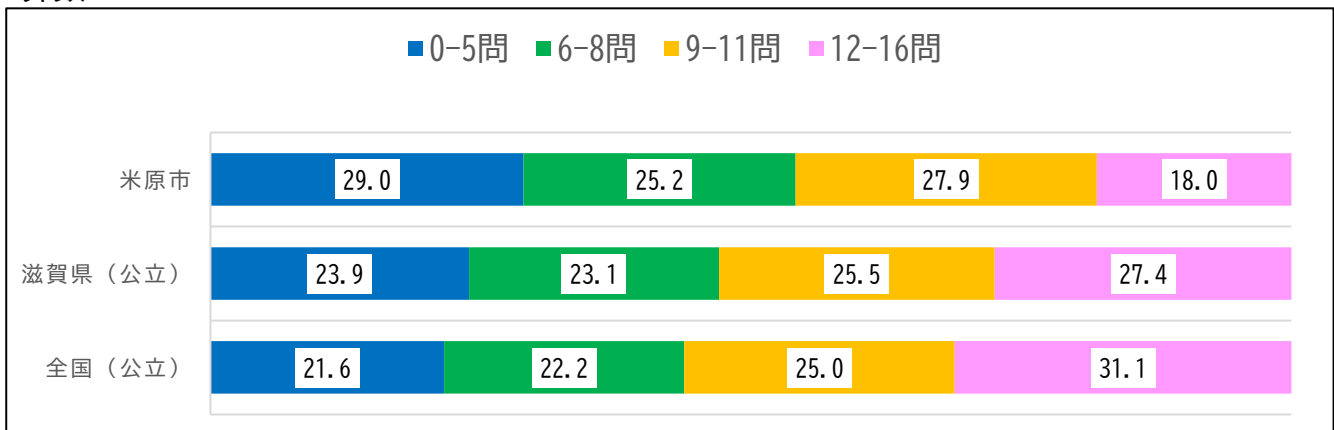
(4) 教科の正答数ごとの層分布(四分位および IRT バンド)

【小学校】

国語

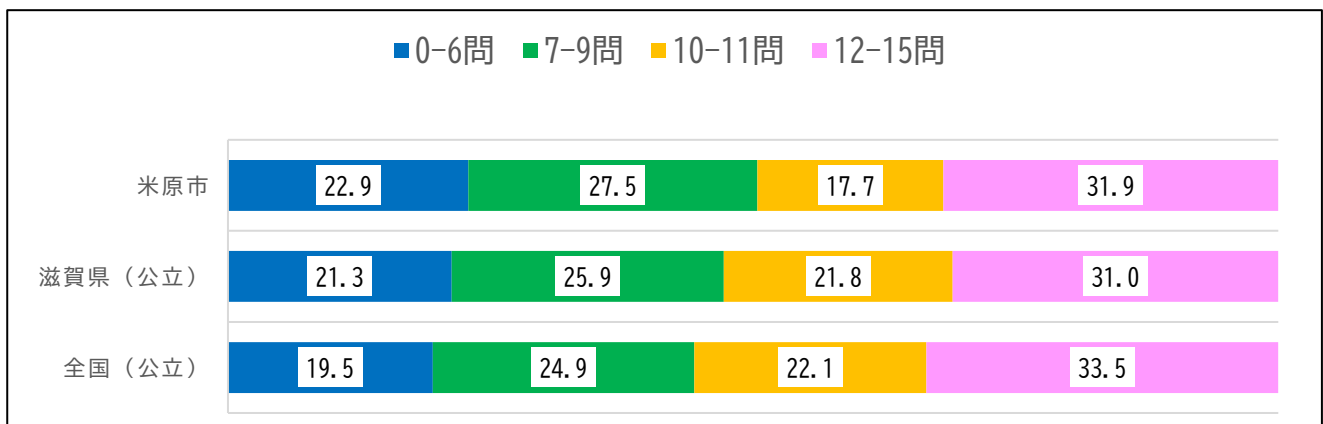


算数

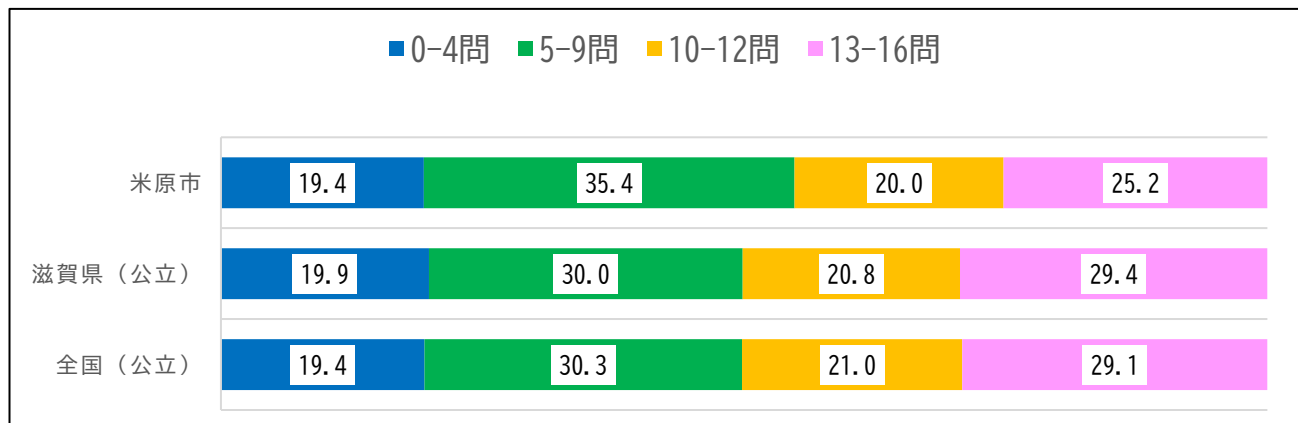


【中学校】

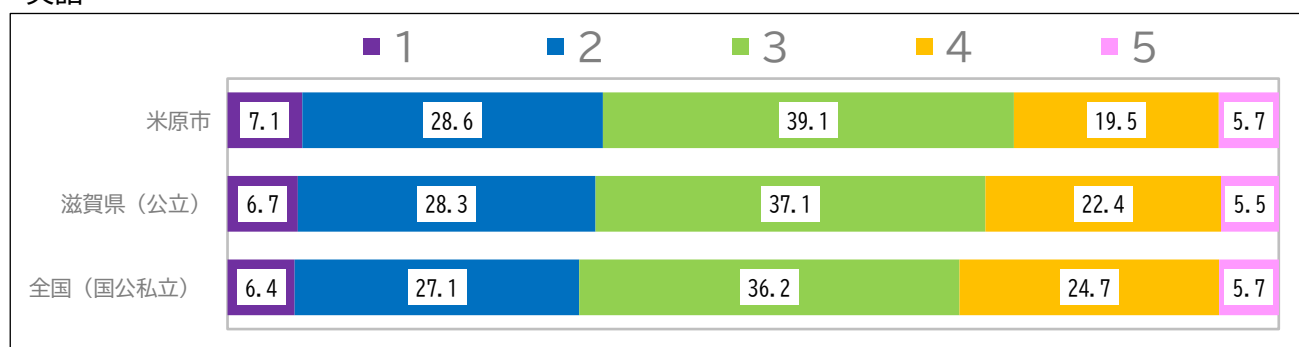
国語



数学



英語



I R Tスコア分布グラフ（パーセンタイル値：10%, 25%, 50%, 75%, 90%）

小学校国語・算数：いずれの教科も、正答数が最も少ない層（0-5問）が約3割と全国より多い。一方で、正答数が最も多い層は全国比で1割以上少なく、「複数の情報を組み合わせて解く応用力」や「自分の考えをまとめる記述力」の育成が喫緊の課題である。

中学校国語：正答率が最も高い層（12-15問）の割合は県を上回っているが、中位層（7-11問）の割合が県、全国より少ない。「的確に読解・記述できる層」と「漢字や語彙などの基礎でつまづいている層」との二極化が生じており、下位層への手立てが必要である。

中学校数学：全国と比較して第2四分位（5-9問）の割合が35.4%と突出して高い。計算等の基礎的な処理能力は定着しているものの、そこから一步踏み出し、「根拠をもとに筋道立てて説明する力」や「未知の問題を解決する力」に課題がある。

中学校英語：「バンド3」の割合が県・全国を上回り、生徒のボリュームゾーンとなっている。一方で「バンド4」以上の割合は県・全国より低く、定型的な英語のやり取りはできるものの、「複雑な内容を英語で表現する力」が不足している。

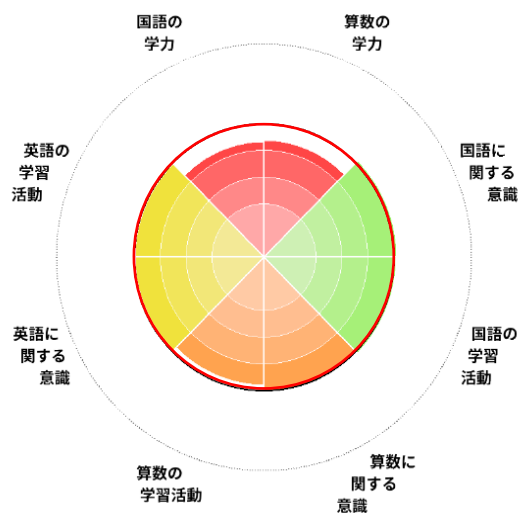
3 児童生徒質問調査の結果

(1) 各学校の教科に関する調査、および児童質問調査の結果について、全国、県と比較基準として標準化して図示したチャート

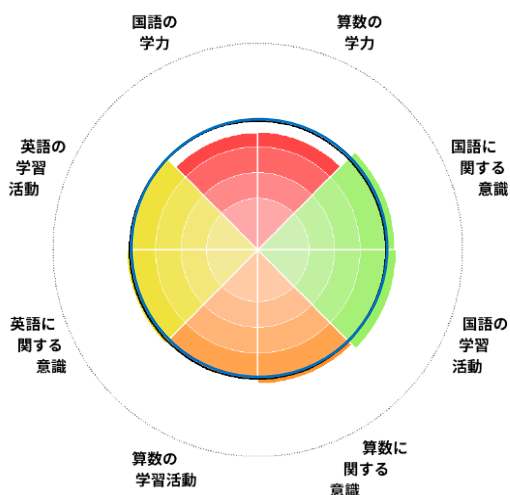
①小学校第6学年のチャート図

【教科を中心とした学力・学習状況】

(赤線は全国基準)

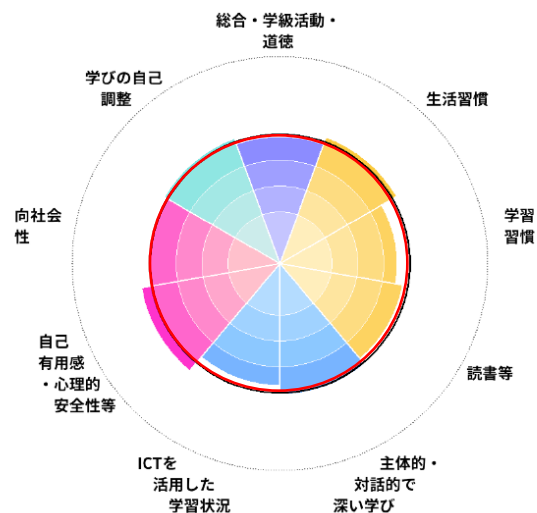


(青線は滋賀県基準)

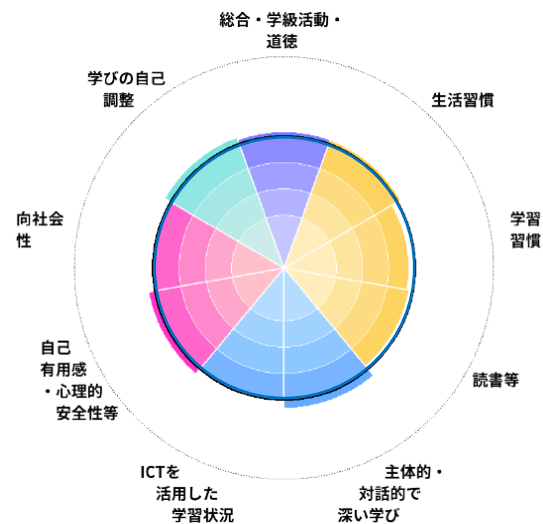


【その他の学力・学習状況（学習習慣・自己有用感等）】

(赤線は全国基準)



(青線は滋賀県基準)



質問調査の「教科を中心とした学力・学習状況」においては、全国・県と比較して、「国語の学力」、「算数の学力」に課題が見られる。また、「その他の学力・学習状況」においては、全国と比較して「ICTを活用した学習状況」「学習習慣」に乖離がある。

一方、「自己有用感・心理的安全性等」は、全国・県の基準を上回っており、本市が目指している自己肯定感・自己有用感を育成する取組の成果が表れている。

○最も肯定値（「強い肯定」「弱い肯定」で回答した児童生徒の割合）が高い質問
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 97.2%（全国 95.8%）

●最も肯定値や頻度が低い質問

「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」 1時間以上 6.7%（全国 17.1%）

○全国と比較して肯定値や頻度が高い質問

「学校の勉強のことに、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか」

週1～2回以上 84.6%（全国 75.0%） **+9.6**

●全国と比較して肯定値や頻度が低い質問

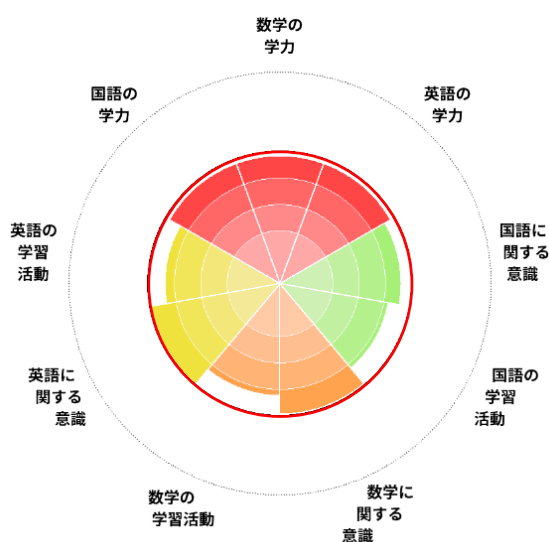
「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」

週3回以上 55.3%（全国 68.8%） **-13.5**

②中学校第3学年のチャート図

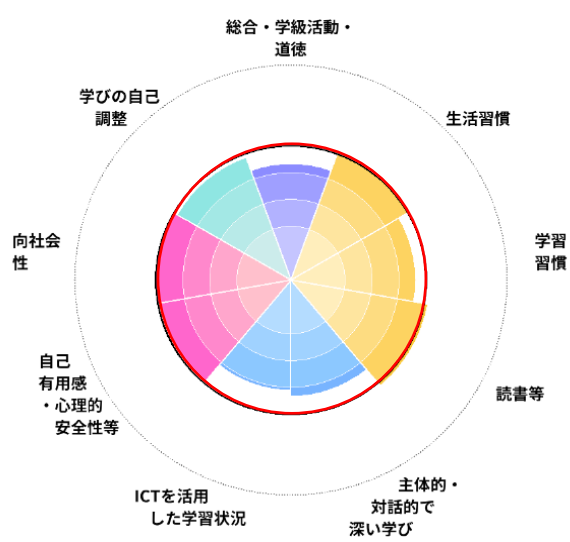
【教科を中心とした学力・学習状況】

（赤線は全国基準）

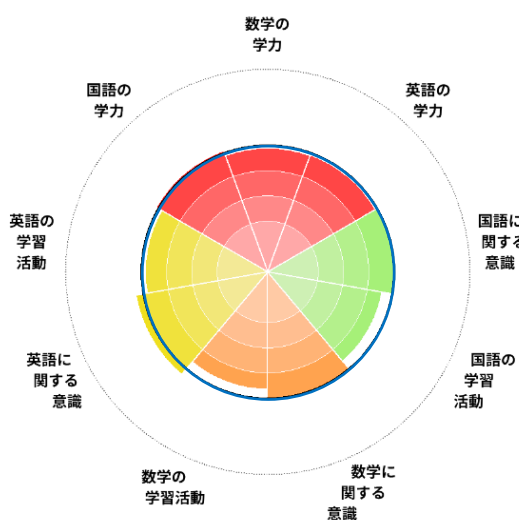


【その他の学力・学習状況（学習習慣・自己有用感等）】

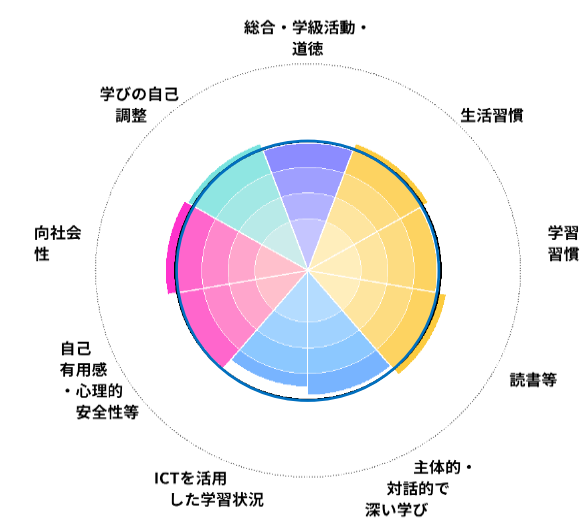
（赤線は全国基準）



（青線は滋賀県基準）



（青線は滋賀県基準）



質問調査の「教科を中心とした学力・学習状況」においては、全国・県と比較して、「国語の学習活動」と「数学の学習活動」に関する意識に課題が見られる。また、「その他の学力・学習状況」においては、全国・県と比較して「ICTを活用した学習状況」「主体的・対話的で深い学び」に課題が見られる。

一方、「向社会性」と「自己有用感・心理的安全性等」は、全国・県の基準を上回っており、地域や他者との関わりに対する意識が高いことに加え、様々な活動を通して、本市が目指している自己肯定感・自己有用感が育成されていることがうかがえる。

○最も肯定値（「強い肯定」「弱い肯定」で回答した児童生徒の割合）が高い質問

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 96.1%（全国 95.9%）

●最も肯定値や頻度が低い質問

「放課後や学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、地域の図書館（電子図書館を含む）にどれくらい行きますか」

月1～3回以上 6.4%（全国 7.0%）

○全国と比較して肯定値が高い質問

「朝食を毎日食べていますか」 94.2%（全国 90.9%）+3.3

●全国と比較して肯定値や頻度が低い質問

「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」1時間以上 16.1%（全国 29.9%）-13.8

（2）学力調査結果とのクロス集計

児童生徒質問調査において、質問ごとの各教科区分とのクロス集計を分析すると、おおむね肯定的な回答の割合が高いほど、平均正答率やIRTスコアが高い項目から特徴的なものを挙げる。

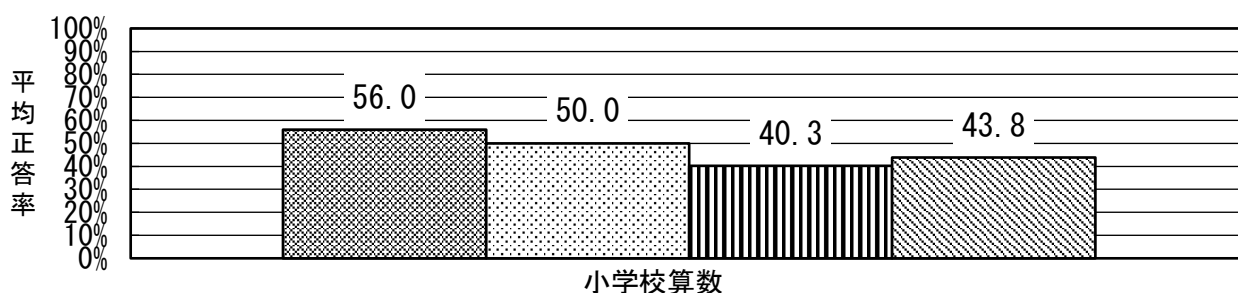
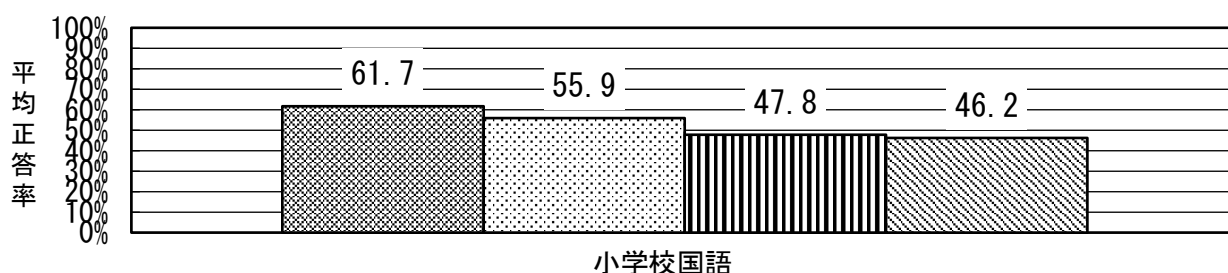
（39）前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

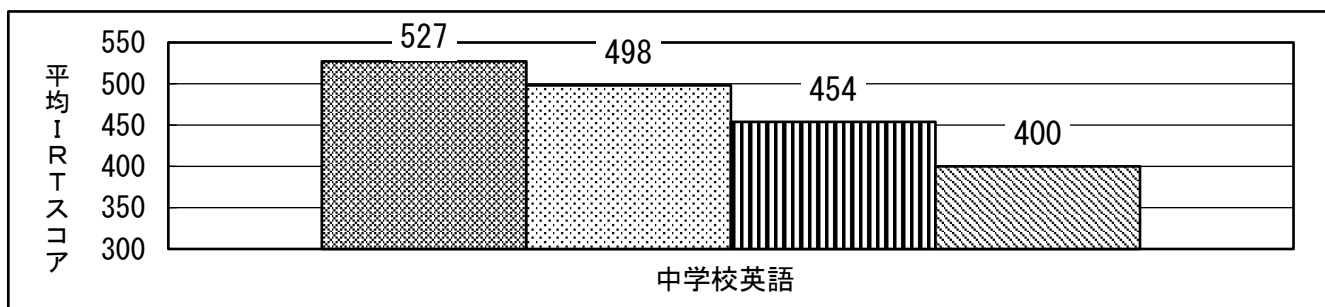
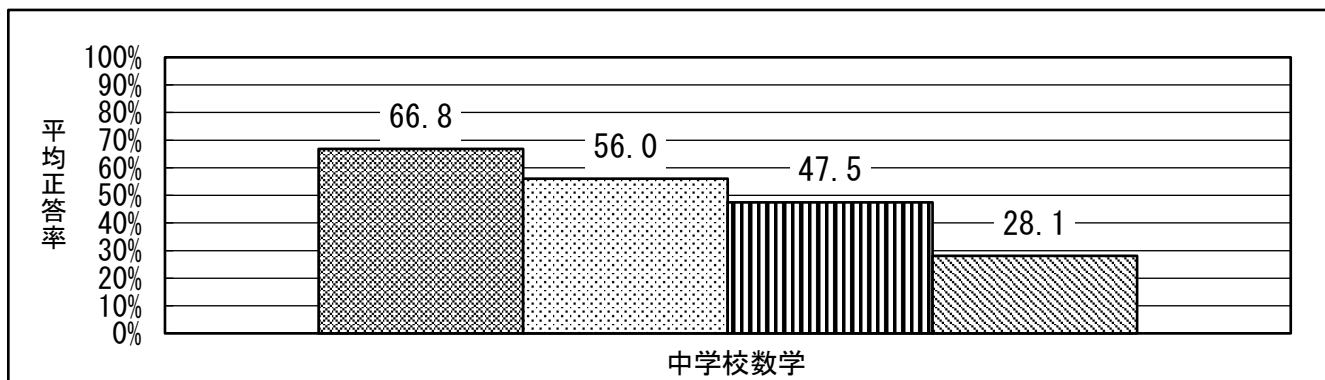
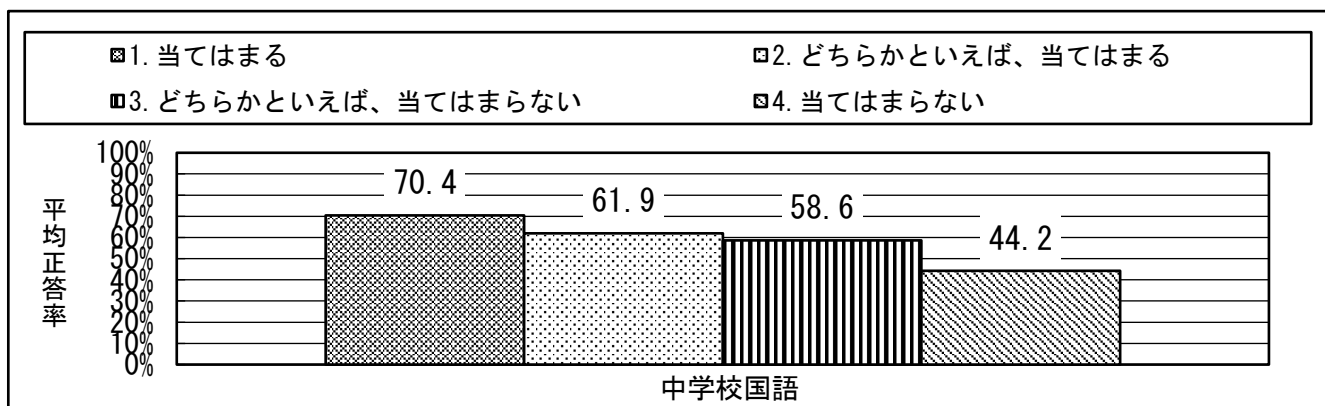
■1. 当てはまる

■2. どちらかといえば、当てはまる

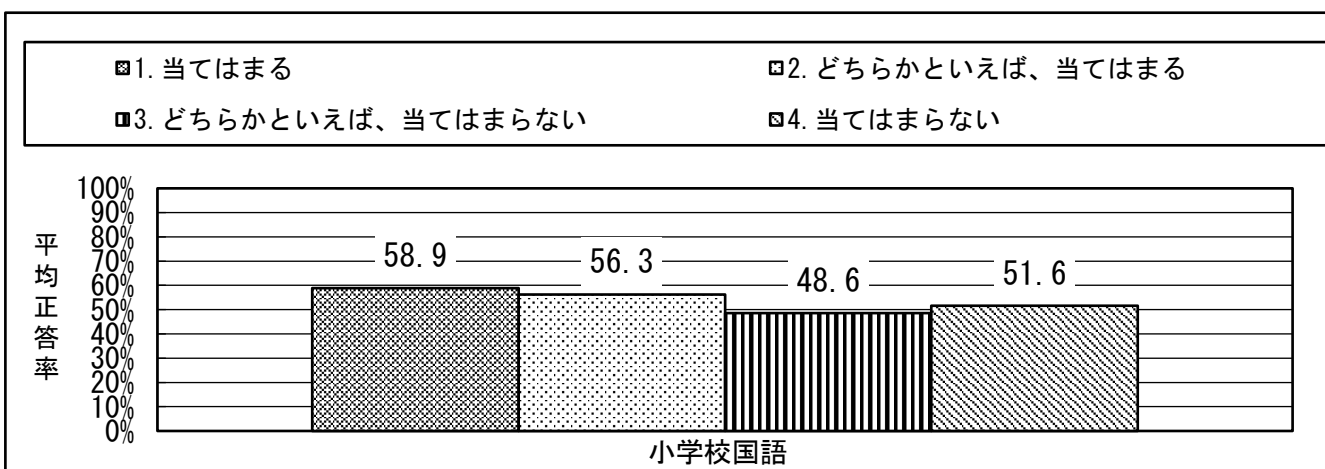
■3. どちらかといえば、当てはまらない

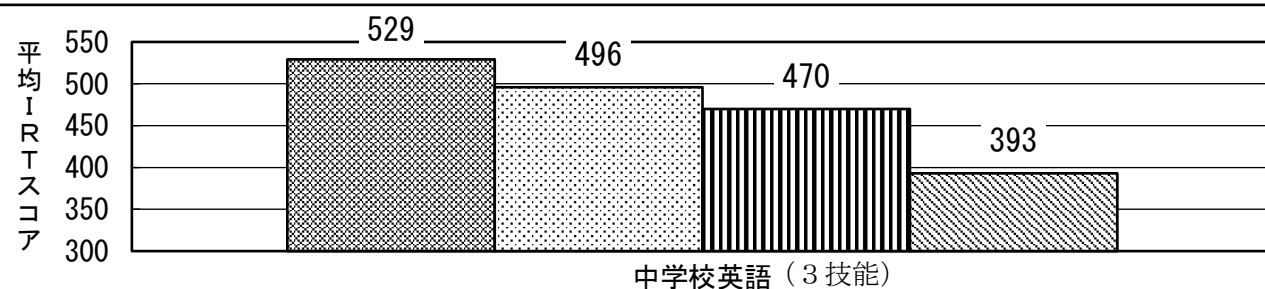
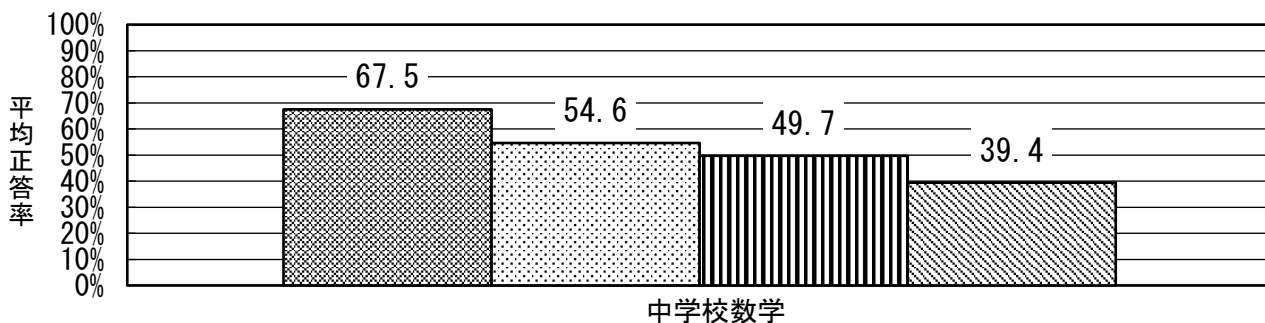
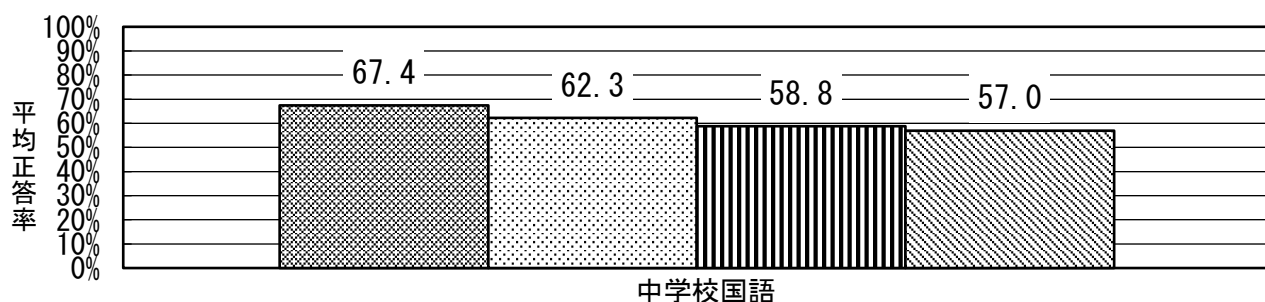
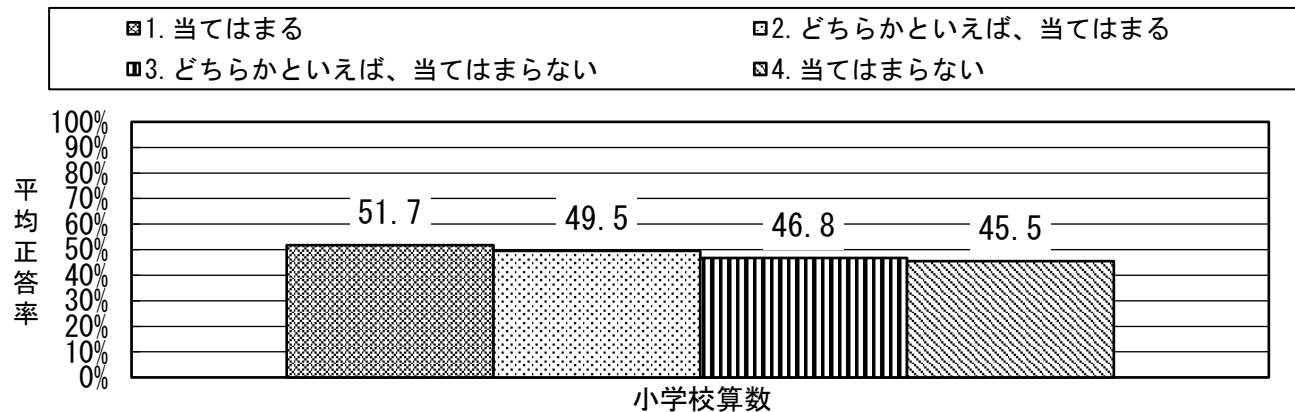
■4. 当てはまらない





(40) 前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。





学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況を問う質問項目の回答から、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。

各学校において、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善が進み、児童生徒が課題解決に向けて自ら進んで取り組んだり、各教科で学んだことを生かして自分の考えをまとめたりする活動が設定されていることが分かる。

今後は、自分で学び方を考え、工夫したり、よく分からなかった点を見直し次の学習につなげたりするなど、自分の思考や行動を把握し認識しながら学習を自己調整し、思考や行動を修正したり、次の思考や行動につなげたりする「学びの主体的な調整」を、ICTを効果的に活用しながら行っていくことにより、さらに授業改善の効果が図れるものと考える。